

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(うめ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(うめ)		
所在地	〒028-8202 岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人ひとりが、その人らしい生活スタイルを保持し毎日を安らぎがあり安全に過ごせるように支援し、職員と利用者が助け合いながらも、のんびりと穏やかに生活して頂けているユニットです。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0393100128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業者は、三陸鉄道野田玉川駅に隣接し、農家や漁家が点在した集落の中に位置し、周辺は畑や森林に囲まれた海が展望出来る高台にあり、自然や生活環境に恵まれた場所に立地している。施設は、特別養護老人ホームやデイサービスが併設されており、入浴施設の活用、ボランティアによる演芸などの見学や敬老会、防火訓練の共同開催など、各機能と連携を図り、効果的な運営により、利用者や家族の安心と信頼を得ている。また、法人の理念を職員間で共有し、運営推進会議の意見や職員の提案を柔軟に受け入れ、利用者へのより充実したサービスの提供を行っている。さらに、保育園や小学校の行事への参加や回覧板による広報紙による地域へのお知らせ、傾聴ボランティアの受け入れ、村や社協との連携による認知症カフェの開催など、地域との交流に力を入れている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年9月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼や会議の際に基本理念の確認、共有を行っている。また、ユニット内に掲示する事により意識するように努めている。	法人の理念や運営方針のもと、職員会議などで目標を定め、朝礼や申し送りなどで、理念等を確認、共有し、日々のサービスに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や学校と行事の際には互いに招待し合い交流している。また法人の広報誌を町内の回覧板を利用し回覧して頂く事で施設の様子を知っていただけるように努めている。	保育園の運動会の予行練習に参加するほか、小・中学校の運動会の見学、地域への広報紙の回覧、傾聴ボランティアや婦人会の踊りなどを受け入れるほか、農家や漁家からの野菜や魚介類の差し入れがあるなど、地域との連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し村内の各関係機関の協力を頂きながら相談や交流の場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事等に合わせ運営推進会議を開催する事で行事へ参加していただき、施設や利用者の雰囲気を感じ率直な意見を聞き参考にしている。	運営推進会議の詳細な議事録の作成と前回提案の事項の報告を行い、委員の意見や提案を運営に反映させている。また、委員による認知症カフェの開催支援など、行事への参加、協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月開催される地域ケア会議に参加する事で地域の情報の共有や課題解決に向けた話し合いを行っている。	市の担当者から運営推進会議での助言や指導を得ているほか、村主催の説明会や研修会に職員を派遣している。特に、市の医療、福祉、警察、消防によるケア会議に出席し、市の情報の入手と関係機関との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し廃止に向けた話し合い取り組みを行っている。外部研修に参加した際には伝達講習を行ったり、施設内研修を毎回開催し職員の知識・技術向上に取り組んでいる。	施設長、管理者、計画作成担当者、看護師による委員会を開催し、他施設の事例などを参考に協議し、その結果を職員に周知するとともに、他の研修会への職員を派遣し、拘束の防止に努めている。身体拘束の事例もなく、玄関の施錠も夜間のみである。	

[評価機関： 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修等に参加する事で虐待に関して理解を深めている。また利用者の状態変化に注意を払い観察を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長や管理者、相談員を中心に研修会に参加し学んでいる。必要の方は今まではないが今後、必要性のある方には利用者と家族と相談しながら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には施設内見学をして頂き契約書や重要事項説明書については十分に理解してもらえるように説明に努めている。また不安疑問点については、いつでも相談できるよう面会時等にも、家族へ職員からお声をかけさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来設時には近況報告を行いながら家族からの意見も引き出せるような雰囲気作りを心掛けている。家族、利用者にも運営推進会議にも参加して頂いている。	家族の来所時や診療同行の際に意見、要望を聴き取るほか、遠方の家族には、電話等で意向を伺っている。広報紙は年4回発行し、施設での活動状況を知らせている。利用者のお手伝いの希望には対応している。	遠方のお家族や来所が少ない家族へ、利用者の毎月の生活状況をお便り(写真やメモ)などにより知らせるなど、より一層、家族等の意見の把握について、検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際には職員から積極的に意見を出し話し合う事が出来ている。疑問や不満等もそのままにせず施設長や管理者に相談できるような環境を日頃から意識している。	職員会議や申し送りなどを通じて、職員の意見や要望を聴くほか、加湿器の整備、数名によるドライブや地域のお祭りの見学など、随時提案を生かしている。勤務体制の変更や資格取得の要望にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働条件を考慮した勤務時間で就労出来るように考慮している。疑問や不満等もそのままにせず施設長や管理者に相談出来るような環境を日頃から意識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や勤務年数を考慮した研修が受講出来ている。今後は自発的に参加出来るように委員会を通して努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やグループホーム・小規模多機能ホーム協会独自の研修会に参加し意見交換を行う事により良い所を取り入れサービス向上の機会となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後には本人家族と面談を行い、意向や情報を伺いながら施設生活にスムーズに移行出来るよう対応している。入所直後は細やかな声かけ、見守り、傾聴を行いながら不安を取り除けるよう心掛けてケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状況によっては本人とは別の場を設ける等、様々な状況を考慮し家族が相談しやすい関係作りに努めている。また来設時には近況報告を行ったり要望の確認を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と直接面談する事で状態の確認を行いサービスの必要性の有無を判断している。また他サービスの必要性がある場合は情報提供や相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存機能を生かしながら家事を手伝っていただいたり軽作業をしていただくことで共同生活を送っている。作業後の感謝の言葉がけには笑顔が見られ役割作りの重要性を実感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には家族でゆっくり過ごして頂けるように環境作りに努めている。また行事への参加依頼をして、共に過ごして楽しい時間を共有してもらい身近な関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会時は、お茶を提供しゆっくりと過ごして頂けるよう支援している。また馴染みの店や懐かしい場所、行きたい所が話題に出ればドライブレクリエーション等で対応している。	知人、友人、近所の方の来所のほか、ドライブの際に自宅周辺の運行や、利用者が以前経営の食堂での食事会を実施した。馴染みの美容院に出かけるほか、地元の理容師による訪問での散髪をしている。行きつけの店に買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の特性を把握し円滑な関係が保てるよう職員が橋渡しし見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所など環境変化に伴い新しいサービスにスムーズに移行できるよう本人の状況や習慣等は細やかに情報提供している。また、いつでも問い合わせには応じる旨を伝える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の意向や希望をくみ取り支援出来るように努めている。例えば嗜好品や本人の希望の献立の提供、行きたい場所、やりたい事を取り入れたレク活動を目指している。	日々の暮らしの中で、利用者に寄り添い、要望等を聴き、好みのメニューやお手伝いを他の利用者の状況を見て、対応している。買い物には、数名で出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所日には今までの生活や入所に至った経緯等の情報収集を行っている。入所後にも些細な行動や言葉の端々からその人らしさを大切にシケアしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の細かな変化も記録に残す事で、多様な状況やパターンの把握を行い統一したケアの提供に努めている。また、個々の自立出来る事は継続出来るように記録で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人または家族から毎月要望の確認を行ったり状況変化が生じていないか確認を行っている。また職員間、家族と相談しながら必要なケアには速やかに対応するよう努めている。	6か月ごとに計画を見直している。居室担当者や計画作成担当者によるモニタリングと2か月に1回の職員会議の際にカンファレンスを行い、家族等に計画を説明し、意見要望を聴き、計画を作成している。介護度等の変更等があった場合は、医師や看護師の指示や指導も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテへの記録に加え、業務ノートを活用する事で職員間の情報共有を行い、介護計画や日常のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズや状況変化が生じた際には、施設長や管理者と相談しながら対応を検討している。本人家族の意向に出来る限り添えるよう法人内外からの協力を得たり、日常業務の変更を行う等し対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭り見学や学校行事への参加、商店での買い物等で地域との関わり楽しみを持てるよう支援している。また消防署や地域消防団の協力を得ながら避難訓練を行う事で安全な暮らしが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には馴染みの医師による診察を継続して頂いている。救急時等に必要に応じては適切な専門医の診察が受けられるよう情報提供を行っている。	入居後のかかりつけ医の変更は2名で、他者は以前の医院等を家族同伴で受診している。家族の要請により職員が同行する場合もある。皮膚科、眼科、整形外科なども同様である。歯科は訪問診療を受けている。感染症予防接種は、特養の医師が対応した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護職員により日々の利用者の健康管理や急変時の対応や相談できる環境にあり迅速な対応に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には家族や医療機関に情報提供しスムーズに治療を受けられるように、また退院後の生活に支障をきたさないよう情報共有を心掛けている。要望があれば医療機関でのカンファレンスへの出席もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADL低下時や看取り期を迎えた際には家族や医療機関と連携を図り施設ではどのような対応が可能なのか話し合い対応している。対応困難な場合は他サービスへの移行がスムーズに行われるよう調整や情報提供を行っている。	入居時に重度化した場合(看取り)の指針により、家族に説明している。ターミナルケアが必要となった場合は、改めて家族の意向を確認し、他の医療機関への移送、施設の特養での対応としている。施設内での看取りの実績はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者のリスクを一覧にまとめ回覧を行う事で個々のリスク管理に活かしている。定期的に心肺蘇生法や救急時の対応方法の研修を行う事で実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練時には地元の消防団の協力を得ながら避難経路や利用者の避難能力の確認をしている。常に物品の備えを行い、福祉避難所としての役割を果たせるよう炊き出し等の訓練も行っている。	特養と共同開催による防火訓練を消防署員立会いで実施した。うち、1回は夜間想定訓練を実施した。署員講評の非常口での対応、車イスでの砂利道走行など、今後の課題としている。施設は福祉避難場所となっており、食材の確保、災害用備品を確保している。保存食品による外での昼食会を実施した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修等を通し利用者の尊厳や権利について考え、不適切なケアや言葉掛けについて話し合い意識するように努めている。	個人情報、パソコンでパスワード管理している。訪問カードは個票とし、広報紙への写真掲載は、家族等の同意を得ている。日頃の話しかけ、お手伝いの割り当て、失禁時の対応など、利用者の心情を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない日常会話や行動でのサインを見逃さず掘り下げる事により、本人の思いや希望を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているが個々のペースに合わせて過ごせるよう見守っている。入浴等の拒否がある際には曜日変更を行ったりしている。利用者同士が穏やかに生活してもらえるように食事の場所を変える場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人に準備して頂いたり意向を確認しながら対応している。家族の協力の元、馴染みの美容院へ通われている方もいる。施設での散髪を希望される場合は本人や家族から髪型の確認をし依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望献立の日を設けてり、献立にパリエーションに努め、食事を楽しんでいただけるよう工夫をしている。また個々の能力に応じ準備や片づけを一緒に行ったり食材を見る触る、調理の匂いを感じて頂く事も食事の楽しみと考え支援している。	献立表は職員が作成し、地元の業者に発注し、職員が調理し、提供している。週1回は希望メニューとし、寿司や弁当なども手配している。夏祭りでの焼きそば、たこ焼き、スイカ割りを実施した。病院帰りやドライブの際に外食している。誕生日の希望食、季節の行事ごとの特別料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師との連携や検査結果を踏まえ栄養面、体重面の管理を行っている。水分補給には嗜好に合わせた物を提供出来るよう様々な物を常に準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医院と連携しながら個々の能力に合わせたケア方法や、定期的な検診を行う事で口腔内の状態を良好に保てるよう支援している。職員もケア方法を学ぶ事で技術の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの確認を行い、状態に応じたケア方法の検討を行っている。安易にオムツへ移行せず自立を念頭に入れ職員間で情報共有して段階を踏みながらリハビリパンツ・パッド等を使用して頂いている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、体操や食事前の声かけのほか、仕草や行動を見て、案内、誘導している。布パンツは5名で、他者はリハビリパンツを利用している。夜間のオムツ利用は3名、ポータブルトイレ利用も3名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために習慣としていた事を聞き取りを行ったり、水分量、活動量に気を付け乳酸食品も献立に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務の都合上、就寝前に入浴支援は出来ていないが、拒否のある場合は曜日を変更したり個々のタイミングを把握しスムーズに入浴出来るよう工夫している。また、どの部分に支援が必要なのかを把握し負担を減らせるよう心掛けている。	週2回、午前中に入浴している。特殊入浴を要する場合は、特養の浴槽を使用している。菖蒲湯を提供し、シャンプー、ソープは個別対応である。入浴を好まない利用者には、日程変更や話題などで気分転換を図り、対応している。異性介助にも問題なく、世間話で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内は馴染みの物を持ち込んで頂いたり個々に合わせた環境を整える事で心地よく穏やかに過ごして頂けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握の為、受診後は薬の変更確認を行い誤薬防止のダブルチェックで薬の管理と予約支援を行っている。受診時には本人の状態を家族に説明し必要時には医療機関への情報提供や同行もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や茶わん拭き等、個々の能力に応じた役割を持つ事で職員がお礼を伝え、感謝される喜びを感じて頂いている。家族と相談し嗜好品の差し入れや外食やドライブ等の気分転換の機会をもって頂いて楽しまれている方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブレクリエーション等の計画時には希望を聞き取り出来る限り希望に添えるように努めている。また施設での対応が困難な場合は本人の意向を家族に伝え、想いを共有して頂き一緒に対応の検討を行っている。	天気の良い日は、周辺の散歩や駅前、公民館まで出かけている。花壇の草取り、収穫、プランターへの水遣りも行っている。三鉄を利用し、宮古に出かけたほか、ドライブで久慈への花見、道の駅など遠方に出かけている。職員、随時提案の数名の買い物、お祭り見学など、柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に応じ所持している方もあり、外出時や訪問販売の際に自ら選び購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族と対応方法の確認を行い、馴染みの関係性が継続できるよう本人の希望時には電話などの対応をしている。また年賀状を出したり家族からの贈り物が届いた際には本人から感謝を伝える事が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔を保つよう心掛けている。中庭で咲いている花を飾ったり季節毎の行事を企画し季節を感じて頂けるように努めている。行事後は写真を掲載する事で日常の様子を家族へ伝える事ができ話題作りにもなっている。	大型のエアコンと冬季の加湿器、一部床暖で温度、空調が管理されている。南東向きの大きな窓から光が入り、2重のカーテンを利用するなど、明るい室内となっている。広々としたロビーに食事用テーブル、ソファーが配置され、畳の小上がりもあり、それぞれの場所で利用者はくつろいでいる。季節の飾りや習字や塗り絵、写真が掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士でソファに座り談笑したり、散歩やお茶をする等、個々のペースで過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライバシー保持空間と考え職員も訪問時には声をかけてから入室するようにしている。馴染みの物を持ち込んで頂いたり好みの家具の配置にする事で居心地の良い空間作りを目指し支援している。	温度はエアコンで管理され、ベッド、タンス、ショウトウ台、手洗い、ハンガー、ナースコール、テレビ端子が設置されている。テレビ、衣装ケース、ソファ、家族写真、鉢物、位牌などが持ち込まれ、居心地の良い場所となっている。希望で暖簾も掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLに応じた環境作りや家具の配置を検討する事で安全に生活出来るよう支援している。職員も環境の人と考え、場所や物の理解が難しい場合は見守りや必要な支援を行っている。		